

独）国際協力機構（JICA）
JICA 食と農の協働プラットフォーム（JiPFA）アフリカ農業分科会
／アフリカ地域サブサハラアフリカ先進農業技術の導入を通じた
農業機械化展開にかかる情報収集・確認調査（AFICAT調査）

AFICAT有識者による コートジボワール視察 報告会



2025年8月5日 Zoomウェビナー

プログラム

時間	内容	登壇者
15:00	開会の挨拶	JICA
15:05	コートジボワールの農業分野の概要	JICAコートジボワール事務所 中川真帆
15:15	有識者視察の結果報告 (1) AFICATコートジボワール委員会と 視察の概要	(株) かいほつマネジメント・コンサルティング 弓削田高大
15:25	(2) 有識者からの報告 有識者①	(株) 新農林社 岸田義典 代表取締役社長
15:30	有識者②	(一社) 日本農業機械工業会 石井伸治 専務理事
15:35	有識者③	(一社) 日本農業機械化協会 藤盛隆志 専務理事
15:40	有識者④	JICA 大石常夫 国際協力専門員
15:45	(3) メディア関係者からの告知 メディア①	(株) 農経新報社 羽田美里 編集局次長
15:48	メディア②	(株) 国際農業社 吉井力也 報道部社員
15:51	質疑応答	—
16:21	閉会の挨拶	JICA
16:30	閉会	



有識者視察の結果報告

(1) AFICAT コートジボ ワール委員会と視察の概要

視察の概要

参加者 (計12名)	・ 有識者／業界紙 6名： ① (一社) 日本農業機械工業会 石井伸治 専務理事 ② (一社) 日本農業機械化協会 藤盛隆志 専務理事 ③ (株) 新農林社 岸田義典 代表取締役社長 ④ JICA 大石常夫 国際協力専門員 ⑤ (株) 農経新報社 羽田美里 編集局次長 ⑥ (株) 国際農業社 吉井力也 報道部 ・ 日仏通訳 1名： 生熊恵美 氏	・ AFICAT調査チーム 5名： (株) かいほつマネジメント・コンサルティング ① 池ヶ谷 二美子 (調査主任者) ② 山口 浩司 (農業機械専門家) ③ 弓削田 高大 (コートジボワール担当) ④ 小早川 聖 (コートジボワール担当) ⑤ Steve Dje (現地コンサルタント)
実施時期	・ 2025年7月28日(月) から8月1日(金) (5日間)	
訪問都市	・ アビジャン、ヤムスクロ	
主な訪問先	・ コートジボワール政府機関 (AFICAT関係者含む) ・ 圃場見学、農家／組合、農業機械販売代理店、農作業請負サービス業者、精米所 ・ 日本政府関係機関 (JICA事務所・大使館、JICA技プロほか) ・ 日系民間企業やその現地販売店	
目的	・ 本邦企業のアフリカ進出への関心を高めるため、有識者／業界紙にアフリカの現場 (今回は特に西アフリカ) を視察してもらい、JiPFA、各所属先、各メディアで現地の農業、機械化などの現状を基に、AFICAT事業の現在、今後の役割・意義についての見解を頂いたり、現地の様子を発信して頂いたりする。 ・ 現状を基に、本邦企業のアフリカ進出支援に向けてJICA／AFICATが何をすると良いかなど、各有識者の視点で助言をいただく。	

全体行程

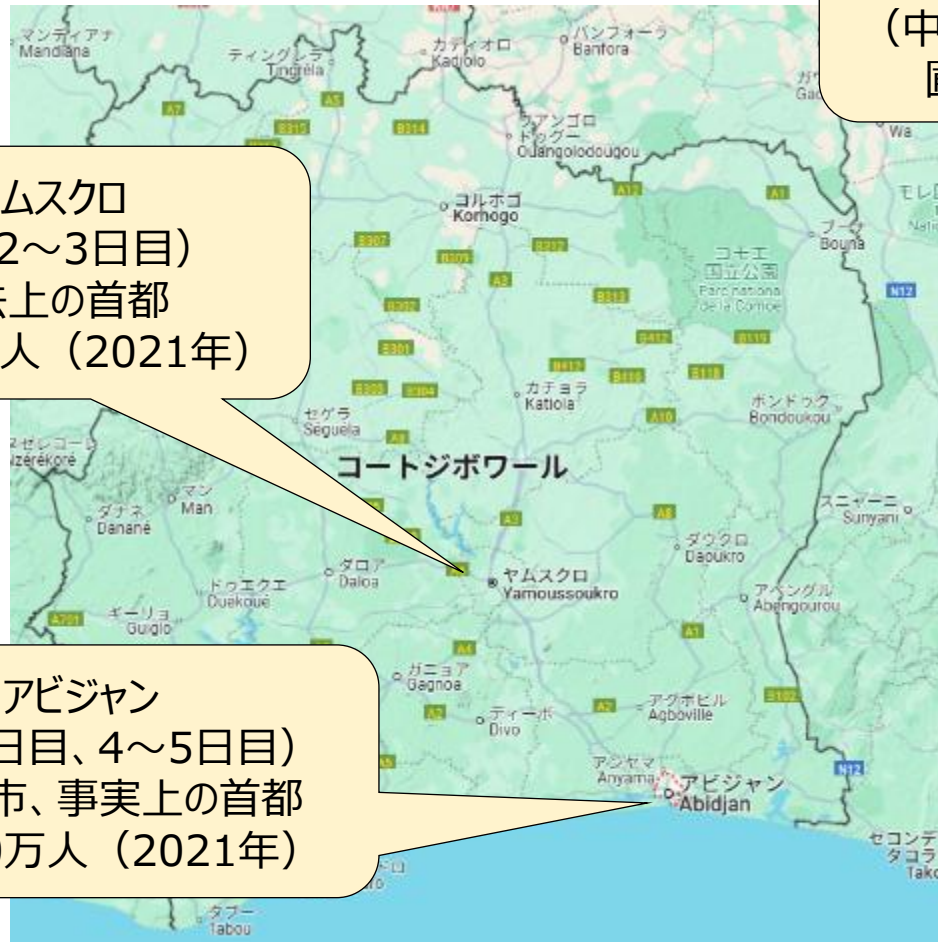
月日	訪問都市	概要
7月26日 (土)	—	19:30 各自チェックイン @成田空港第2ターミナル出発ロビーエミレーツ航空カウンター 21:30 搭乗ゲート集合 22:30 EK0319 成田発
7月27日 (日)	アビジャン	13:50 EK787 アビジャン着⇒ホテルへ移動（15：30頃着） 夕食（希望者のみ各自ホテルで）
7月28日 (月) (Day1)	アビジャン	08:15 ホテル発 09:00-09:45 コメ流通業者組合 10:30-11:00 ADERIZ表敬 11:30-12:30 商工会議所表敬（ショールームも見学） 12:45-13:45 昼食 15:00-16:00 本邦企業の販売店①：ATCComafrique（ヤンマー販売店） 18:00- 夕食
7月29日 (火) (Day2)	ヤムスクロ	08:00 ホテル発 09:00-10:00 コマツ ヤムスクロへ移動 12:30-13:30 PRORIL2事務所（ラボ視察、専門家やC/Pとの意見交換） 13:30-14:30 昼食 PM ヤムスクロ近郊の圃場視察 18:00- 夕食

月日	訪問都市	概要
7月30日 (水) (Day3)	サカス	08:30 ホテル発 サカスへ移動 AM1 サカス近郊の圃場視察（コメ農家組合） AM2 サカス近郊の精米所視察（農業機械サービスプロバイダー） 昼食 ヤムスクロへ移動 16:00-17:00 大聖堂観光 18:00- 夕食
7月31日 (木) (Day4)	アビジャン	09:00 ホテル発 アビジャンへ移動 12:30-13:15 昼食 13:30-14:30 伊藤忠商事（マツダの販売事業） 15:00-16:00 本邦企業の販売店②：Lassire Industrie（クボタ販売店） 16:30-17:30 農業省表敬訪問 18:00- 夕食
8月1日 (金) (Day5)	アビジャン	08:30 ホテル発 09:00-10:00 CFAOモーターズ（豊田通商の子会社） 10:30-13:00 AFICAT委員会とのワークショップ 14:00-15:30 昼食 16:00-17:00 JICA事務所報告（大使館職員も出席） 18:00- 夕食 ホテル着
8月2日 (土)	AM：アビジャン PM:機中	08:00（観光希望者） or 12:00（それ以外） チェックアウト 市内観光⇒昼食（希望者のみ） 12:30 空港へ移動 13:00 空港着 15:25 EK0788 アビジャン発
8月3日 (日)	機中	22:25 EK0312 羽田着 24:00 解散（EKビジネスクラス搭乗者はタクシー券で自宅へ帰宅）

地図

ヤムスクロ
(主に2～3日目)
憲法上の首都
人口34万人 (2021年)

アビジャン
(主に1日目、4～5日目)
最大都市、事実上の首都
人口560万人 (2021年)



コートジボワール全土

サカス (3日目)
ヤムスクロから車で1時間半ほどのサカス
(中部の主要都市ブアケにも近い) の
圃場や精米所を訪問しました。



ヤムスクロ-サカス間拡大図

1日目朝：アビジャンのコメ流通業者協会

- | | |
|----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">PRORIL2での実証を経て、現地で本邦農機（株）サタケの光選別機、カンリウ工業(株)の石抜き機）が導入・活用されている様子を見る。 |
|----|--|

訪問先	アビジャン市内Yopougon地区のコメ流通業者協会の事務所
-----	--------------------------------

場所	アビジャン市内
----	---------



協会長との
意見交換の
様子



稼働中のサタケの光選別機



稼働中のカンリウ工業の石抜き機

1日目午前・4日目夕方：AFICAT委員会メンバー機関表敬

目的	・ 現地でAFICATを推進する官民の主要機関への表敬 ・ 商工会議所に開設している「AFICATショールーム」の見学
訪問先	①1日目午前：コメセクター開発機構（ADERIZ）⇒ コートジボワール商工会議所 ②4日目夕方：農業省（農村開発総局長、コメ振興総局長など）
場所	アビジャン市内



ADERIZの総裁ら幹部職員と意見交換



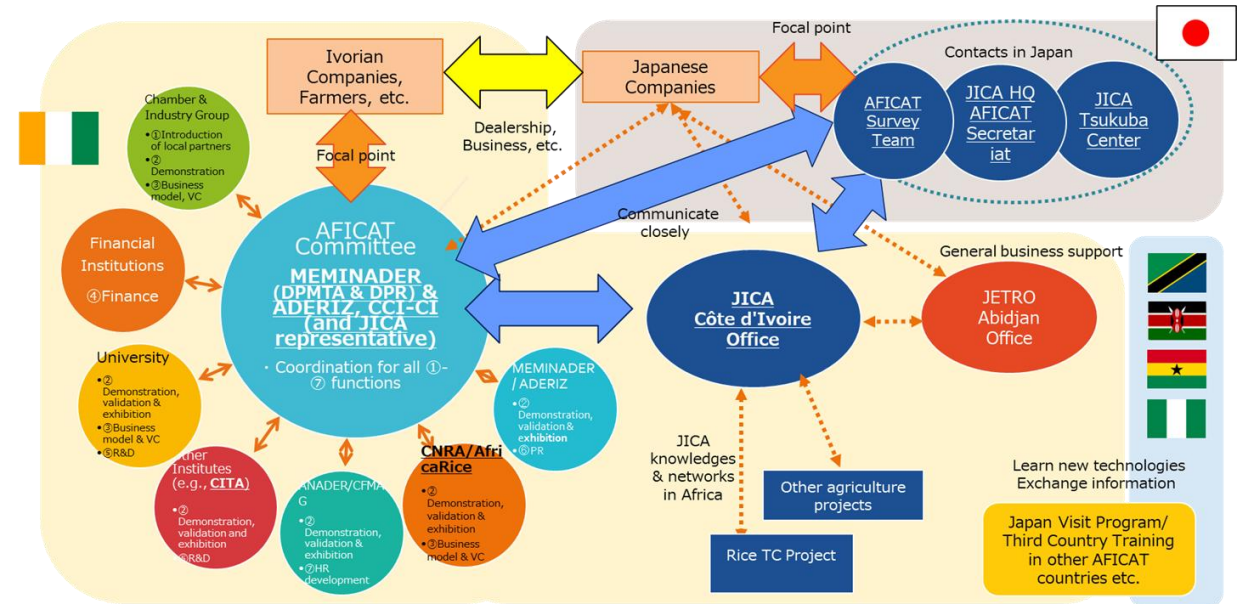
商工会議所のAFICATショールームを見学



農業省の総局長らと意見交換

補足：AFICAT コートジボワール委員会

- AFICAT対象各国で、現地活動の実施部隊、本邦企業の受け入れ、現地の農業関係者からの問い合わせ窓口としてのAFICAT委員会を設立しています。
- コートジボワールでは、**農業省 (MEMINADERPV)** の機械化担当局、稲作局に加え、コメ政策の実施機関である**コメセクター開発機構 (ADERIZ)**、民間セクターの代表として**コートジボワール商工会議所 (CCI-CI)** を主要機関として、それ以外にも、次頁にリストアップしたような農業セクターを代表する様々な機関が参加しており、現地における広範なネットワークを有しています。



キックオフセミナーにてAFICAT委員会メンバーなどと

補足：AFICAT委員会メンバーリスト①

組織名	氏名	役職・担当	備考
国家農業農村開発 食料生産省 (MEMINADERPV) 農地近代化促進局 (DPMITA)	M. AGBRI Lako 局長	委員長	
	Mme ADOU Yachi Brigitte Larissa	機能①「アドバイス」	
	M. DOH BI DJE Alain	機能②③「展示・実証など」	
	M. DADI Richard	機能⑥「広報」	
稲作生産局 (DPR)	M. VE Youde Medard 局長	第1共同委員長	2025年5月の招へいで来日
	Mme KONE Clekaman Maimouna	機能⑦「人材育成」	
コメセクター開発機構 (ADERIZ)	M. KOUAME Bi Christian Cyrille	第2共同委員長	2023年5月の招へいで来日
	M. Moussa BAKAYOKO	機能①「アドバイス」	
コートジボワール商工会 議所 (CCI-CI)	M. YAO Germain 経済情報局長	第3共同委員長	2025年5月の招へいで来日
	M. AGBOTON Dinvoh Florent	機能②③「展示・実証など」	

補足：AFICAT委員会メンバーリスト②

組織名	氏名	役職・担当	備考
コートジボワール銀行・金融機関協会（APBEF-CI）	M. Daniel BEKE	機能④「金融」	銀行の業界団体。本邦農機の導入にローンが必要となった時などを想定して連携
コートジボワール小規模金融システム協会（APSFD-CI）	M. Cyrille TANOE	機能④「金融」	マイクロファイナンス機関の業界団体。同上
コートジボワールコメ加工業者協会（GPUR-CI）	N'Guessan Essis Job	機能④「金融」	コメ加工業者の業界団体
国立農業研究センター（CNRA）	Prof. Da Costa Kouassi S.	機能⑤「イノベーションラボ」	研究機関のため、本邦技術の実証拠点となりうる
農村開発支援公社（ANADER）	M. KANGOU Ignace Desiré Albert	機能⑤「イノベーションラボ」	農業省所管の普及機関。地方や他の作物セクターなどへの展開可
JICAコートジボワール事務所	Mme NAKAGAWA Maho	機能⑥「事務・調整」	
	M. BROU Koffi Désiré	機能⑥「事務・調整」	

1日目午後・4日目午後：本邦農機メーカーの販売店訪問

目的 • 現地で本邦農機を販売している販売店の視点から、本邦農業技術の現地導入促進にかかるアドバイス、提案などをもらい、今後のAFICATに向けた意見交換を行う。

訪問先 ①1日目午後：ATC Comafrique（ヤンマー販売店）
 ②4日目午後：Lassire Industrie（株クボタ販売店）

場所 アビジャン市内



ATC Comafrique事務所の外観



ATC Comafriqueのワークショップにて
展示中のヤンマーのコンバイン



Lassire Industrieのワークショップにて
クボタのコンバイン（本視察外の写真）

2日目朝・4日目午後・5日目朝：本邦企業訪問

目的 • 現地で事業を展開している農業関係以外の本邦企業から、本邦企業の当地進出に向けたアドバイスや提案、情報などをもらい、今後のAFICAT活動の参考とするため。

訪問先 ①（2日目朝）コマツ（株）小松製作所：建機メーカー。中国製機械との競争、欧州を拠点に西アフリカ市場を管轄する等農機との共通点が多いが、業界や本邦企業をけん引し、先行する）
②（4日目午後）伊藤忠商事：商社。マツダ・いすずの自動車販売事業を手掛ける
③（5日目朝）CFAOモーターズ：豊田通商の子会社としてトヨタ、スズキの販売事業を展開

場所 アビジャン市内

<補足情報①>

- JETROによれば当地には16社（2023年時点）の本邦企業が拠点を置いており、こうした企業からコートジボワール進出のポイントを学ぶことができる。
- JETROアビジャン事務所では「本邦企業連絡会」と称して、コートジボワールに進出済み／関心を持つ企業向けの情報交換会を定期的を開催している。

<補足情報②>

- 自動車販売に関して、当地にはGIPAME（Groupement Interprofessionnel Automobiles Matériels et Equipementiers）と呼ばれる自動車ディーラーの業界団体がある。機械の輸入プロセスの簡易化など政府へのロビイングを行っている。2022年時点で農機を取り扱う会員企業は8社存在する。（ATC ComafriqueやLassire Industrieも会員）

2日目午後：PRORIL2事務所

<PRORIL2>

目的

- PRORIL2で導入・活用・改善している本邦農機・技術などの見学
- PRORIL2スタッフ・日本人専門家との意見交換

訪問先

PRORIL2事務所

場所

ヤムスクロ市内



コメの品質検査室（LABORIZ）。(株)サタケや(株)ケツト科学研究所の製品を使用



プロジェクトで導入・実証したヤンマーのコンバイン、耕うん機、脱穀機など



IRRIから導入した平型乾燥機の説明を受ける視察参加者

2日目夕方・3日目：コメ農家・圃場・精米所視察

- | | |
|----|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none">・ コートジボワールのコメ農家の農業機械化体系、精米所の現状の確認・ 本邦農機による収穫作業の様子を視察し、現地における本邦農機の適合性を確認する。 |
|----|---|

訪問先	2日目：ヤムスクロ近郊の圃場 3日目：①CORISAK（サカスコメ農家組合） ②CAFREX（農機サービスプロバイダー。精米所も運営）
-----	---

場所	ヤムスクロ、サカス
----	-----------

<補足情報>（AFICATウェブサイト「[各国情報／コートジボワール](#)」より一部編集して引用）

- ・ 高価な農業機械を小規模農家が購入することは容易ではない。そこで、農家は機械作業が必要な時だけ、機械の所有者に作業を委託する。機械を所有できる裕福な農家がサービスを提供する場合と、民間業者が農作業の請負サービスを提供する場合がある。後者は農機サービスプロバイダーと呼ばれる。コートジボワール政府は過去の教訓を踏まえ、こうした民間業者の農作業請負プログラムを推進している。特にコロナ禍の緊急支援プログラムでは、本邦製を含む農業機械を大量調達し、20%補助かつ無利子で農機サービスプロバイダーによる農機の取得を支援した。2021年のADERIZの調査によると、国内には大小合わせて298のサービスプロバイダーがいる。そのうちADERIZに正式に登録されているプロバイダーは29社いる。

(ヤムスクロ近郊の圃場の様子)



(サカスの圃場・精米所の様子)



5日目：AFICAT委員会とのワークショップ／JICA訪問

<ワークショップ>

目的

- ・ コートジボワールへの本邦技術の導入を促進するための方策、AFICAT委員会のアクションプランなどを、委員会メンバーを協議する。

訪問先 農業省本部会議室

場所 アビジャン市内



AFICAT委員会の活動について発表する
農業省のVe副委員長

<JICA>

目的

- ・ 視察結果のJICA現地事務所／日本国大使館への報告

訪問先 JICAコートジボワール事務所

場所 アビジャン市内



先方からは14名の出席者がおり、
コミットメントの高さがうかがえた



農業機械化戦略について説明する
農業省のDadi職員



質疑応答

お知らせ：今後のAFICAT関連イベントのご案内

時期	活動予定
2025年8月	8月20-22日 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）
	8月31日-9月5日：セネガル展示会出展（AFSF） ※近日AFICATメーリスにて告知予定
2025年9月	9月3 or 4日：第7回情報交換会（ナイジェリア編） ※近日AFICATメーリスにて告知予定
2025年10月	開催時期未定：ナイジェリア展示会出展
2025年11月	
2025年12月	12月第1週：ガーナ展示会出展（農民の日）
	開催時期調整中：JiPFAセミナー／有識者会合

※現地展示会参加

※日本国内で参加可能なイベント

※情報交換会は今後も開催予定。日程・内容が確定次第、AFICATのメーリングリストなどで共有します。

ありがとうございました



問い合わせ先：
(株)かいはつマネジメント・コンサルティング
AFICAT調査チーム
aficat.team@kmcinc.co.jp



参考：
AFICATコートジボ
ワールの進捗

2022年-2023年：パイロットフェーズ

- 2022年6月-2023年10月まで、AFICAT調査チームと農業省農地近代化局（※機械化担当の部局）とコメセクター開発機構（※農業省所管の行政法人）の数名のフォーカルパーソンとともに、複数のパイロット活動を試行しました。
- パイロットフェーズ中には計16社の本邦企業をAFICATとして大小さまざまな形で支援しました。
- AFICATの本格稼働に向けた基盤を整えつつ、パイロット活動の結果をもとに、現行フェーズの実施体制（＝AFICAT委員会）を提案しました。



2022年-2023年：パイロットフェーズ



(株)ケット科学研究所の穀物水分計の
セミナーを実施



カシューナッツセクターを対象に
(株)サタケの光選別機のセミナーを実施



アフリカライス（国際研究機関）で
(株)パルサー・インターナショナルの
葉面散布肥料を用いた実証栽培

2022年-2023年：パイロットフェーズ



PRORIL 2 での本邦技術の導入・活用の
様子取材し、広報



コートジボワールの農業関係者向けに
AFICATニュースレターを発行



AFICATとして計2回の展示イベントに参加

2025年2月：AFICAT委員会設立

- AFICAT対象各国で、現地のAFICAT活動の実施機関、本邦企業の受け入れ、コートジボワールの農業関係者からの問い合わせ窓口としてのAFICAT委員会を設立しています。
- 2024年後半以降、現地の連携候補機関とともに、コートジボワールでも委員会の設立に向けた協議を重ね、2024年12月に合意文書の署名をもって正式に設立となりました。
- その後2025年1月よりメンバー間でAFICAT委員会の年次ワークプランの作成を進め、2月のドラフトの完成を経て、4月に最終版が承認されました。今後、ワークプランに沿った活動が展開されていきます。
- 2025年2月20日（木）には、委員会設立とドラフトワークプランのお披露目にかかるキックオフセミナーを開催し、国内の農業関係者にAFICATの存在を周知し、活用・協力を依頼しました。

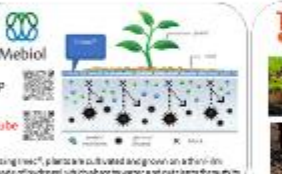


2025年2月：AFICATショールーム開設

- 本邦農業技術・製品の展示室・インフォメーションセンターとして、アビジャン市内のコートジボワール商工会議所（CCI-CI）に開設中。
- コートジボワールへの関心表明のあった計18社（2025年6月時点）の広報カタログ、リーフレット、ポスター、動画、製品本体などを展示。
- 後述の現地農業展示会出展などの際にはこちらの展示製品・資料を活用しています。
- (株)ケツト科学研究所は、製品実機を展示中。



2025年2月：AFICATショールーム開設

 Engins agricoles	 Moissonneuse-batteuse	 Rotative pour le labour	 Durcisseur de surfaces	 Courroies de transmissions (pour machines agricoles)	 Humidimètre
 Trieuse optique	 Séchoir et usinage du riz	 Rice huller Décortiquage / Usinage du riz paddy	 Agriculture avec usage de films	 Pots en papier et système de transplantation	 Séchoir alimentaire
 Briquettes à base de balles de riz	CONTACTS AFICAT Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology Consultant local en Côte d'Ivoire (Mr. Steve DJE) Email: steve.dje.amdagro@gmail.com WhatsApp: (225) 07 47 83 80 50 Équipe de consultants au Japon Email: aficat.team@kmcinc.co.jp Secrétariat AFICAT du siège de la JICA Email: aficat@jica.go.jp		 Engrais	 Semences de légumes	 Engrais biologique
 Vaccins, anesthésiques et analgésiques, antimicrobiens et désinfectants pour les animaux AFICAT Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology ADERIZ JICA GRA GPUR					

各社の製品写真・ウェブサイト・YouTubeなどへのQRコードリンクを一覧にして訪問者に配布しています

2025年5月：SARA2025出展

- 2025年5月23日（金）～6月1日（日）（10日間）にアビジャンエキスポパーク（アビジャン市内）で開催された、第7回国際農業・動物資源展示会（SARA）にAFICATブースを出展し、本邦企業の農業技術・製品を紹介しました。
- SARAは、西アフリカ地域最大の農業・動物資源分野の展示会です。コートジボワール国内のみならずアフリカ諸国からの参加者も多く、今年も900以上の出展者と40万人以上の来場者がありました。
- AFICATでは18社の本邦技術を広報資料・ビデオなどを通じて紹介しました。記帳者だけで506名の訪問がありました。記帳していない人の数も含めると実際にはそれ以上の訪問者がありました。



2025年5月：SARA2025出展

- (株)ケット科学研究所は製品実機を展示し、現地販売店のスタッフを派遣して、デモを行っていました。ヤンマーの現地販売店は、単独で出展し、コンバインや耕うん機を展示していました。
- 委員会メンバーのADERIZ、CCI-CIのブース内のスペースを借り受けました。委員会メンバーにもブースに立ち、訪問者への応対、本邦技術・製品の説明を行ってもらうことで、今後、より効果的に本邦技術の導入促進に取り組んでもらえるよう、能力強化を図りました。
- 現在、AFICAT委員会がビジターブックの内容を分析し、関心のある本邦企業や技術ごとに、今後、フォローアップアクションを行っていく予定です。



2025年5月：SARA2025出展



AFICAT現地コンサルタント（左）がQRコードシートを用いて、訪問者の企業を聞き取り、ニーズに合う企業を紹介



(株)ケット科学研究所の現地販売店はスタッフ（中央女性）を派遣。複数の製品を展示して、関心を持った訪問者にはデモを行っていました